

【小施策評価(令和元年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

| | | | | | |
|------|------|----------------|------------------|-------|---------|
| 基本目標 | 4 | 人が集い活力を生むまちづくり | 小施策 主管課等 | 文化国際課 | |
| 施策 | 29 | 都市間交流の促進 | 評価 責任者 | 下田 法子 | 内線 3710 |
| 小施策 | 29-1 | 都市間交流の推進 | 評価 シート 作成者 | 齋藤 克幸 | 内線 3711 |

小施策の概要

| | | |
|--|---|--|
| 現状と課題(総合計画実施計画から転記) | ⇒ | 取組の方向性(総合計画実施計画から転記) |
| 経済・文化・歴史などの異なる都市や地域の人々との交流は、人々の生活の質の向上とともに、経済文化活動の活性化など、まちのにぎわいの創出にもつながることから、さまざまな都市との市民交流を促進していくことが必要である。 本市では、昭和59年に南部氏のゆかりの深い自治体により南部首長会議を発足するとともに、平成24年には沖縄県うるま市と、平成31年には東京都文京区と友好都市提携の締結を行っており、それぞれ市民交流が広がっている。 本市では、これ以外のさまざまな都市や地域との市民交流も幅広く行われており、その広がりや深まりを促進していく必要がある。 | | 市民の生活の質の向上やまちのにぎわい、魅力向上に資するため、友好都市等や経済・文化・歴史などの背景の異なるさまざまな都市・地域の人々との交流を促進する。 |
| 対象(誰(何)を対象として行うのか) | ⇒ | 意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態) |
| 市民 連携市町村 | | 市民の生活文化の質が向上する。 都市間の連携した取組が活発になる。 |

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和元年度実績)

| 実績値の推移 | | | | 実績の評価 | |
|--------------------------|---|-----|-------|---|--|
| 指標① 都市間交流を促進するための協定等の締結数 | | 単 位 | 目指す方向 | 成 果 点 | 成果の要因分析 |
| 当初値 (H25) | 4 | 件 | ↗ | | |
| R1目標値 | 5 | | | | |
| R6目標値 | 6 | | | | |
| | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県うるま市と相互に交流を図った。 ・東京都文京区と、友好都市として相互に交流を図った。 ・令和・南部藩交流事業について、相互に交流を図った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「いわて・盛岡デー・イン・沖縄」や「ちゅらしま大沖縄展」の実施により、両市民が物産の購入などを通じ、お互いの文化に触れる機会となった。 ・文京区で開催されている「啄木学級文の京講座」や友好都市を提携した記念事業として、盛岡国際俳句大会や小学生農村体験交流事業を実施し相互交流を図ったほか、記念碑の設置や記念植樹を実施した。 ・構成市町とこれまでの取組を振り返るとともに、令和元年5月1日から、元号が改元されたことから、名称を「令和・南部藩」と改め、交流事業を進めた。 |
| | | | | 問 題 点 | 問題の要因分析 |
| | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・市民レベルでの交流のさらなる促進。 ・うるま市や文京区、南部氏ゆかりの都市、また、その他の都市と様々な面で交流が促進され、賑わいにつながること。 | <ul style="list-style-type: none"> ・交流につながる機会が不足している。 ・都市間交流の機会が、イベントへの参加など、限定的となっていること。 |

今後の方向性(令和2年度以降)

| |
|--|
| <p>評価を踏まえた取組の方向性</p> <p>★…R2年度着手または着手予定 ☆…R3年度以降の着手を検討</p> <p>☆1 うるま市及び文京区との交流について、交流の機会を増やすため、イベント実施の際に、さらに市民交流が促進されるような工夫をする。</p> <p>☆2 うるま市や文京区、函館市、あるいは南部氏ゆかりの市町など、既に交流のある都市との交流を深めるため、従来からの交流を踏まえつつ、教育や文化、経済など多角的側面からの交流へと更に取り組みを広げ、市民レベルでの交流を促進する。</p> |
|--|